

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 観 点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 基本的な生活習慣を身につけ、自己研鑽に努め、宗教心の薫育、奉仕活動への参加を促す。	① 合掌と讃歌、瞑想の朝礼礼拝を行い、一日の学びの始まりに心を落ち着かせ、自分を見つめる。朝礼時の担任から生徒への語りかけは薫習の場とする。	宗教科 学担会 総務	朝礼礼拝の取組やホーム担任の話を聞く姿勢が、きちんとできているホームとできていないホームの差がある。	【努力指標】 心を落ち付かせ素直に自分を見つめる時間とし、担任の言葉が生徒に届くものとなっているか	朝礼が落ち着いて自分を見つめる場に A 十分なっている B だいたいなっている C あまりなっていない D なっていない	C・D評価が10%以上 においては内容を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	② 宗教の授業や行事(花まつり、報恩講)を通して、自己の内面を省みる。	宗教科	宗教の授業や花まつり、報恩講等の行事を通して学んだことは、宗教科文集「預流」にまとめられている。	【努力指標】 授業や宗教行事が、自分を見つめる時間となっているか。	宗教教育で自分の生き方を考えることが A 非常によくできた B まあまあできた C あまりできなかった D できなかった	C・D評価が15%以上 において内容を検討する。	心の教育に資する。 生徒に対してアンケートを実施する。
	③ 本校の根幹である宗教教育についての認識を深める研修の機会を持つ。	宗教科 第1学年	一年生が、東本願寺にて1泊研修を10月に行い、「本当に生きることを」学ぶ。	【努力指標】 講話をはじめ研修が有意義と感じたか。	上山研修は A 十分満足できた B だいたい満足している C あまり満足していない D 分からない	C・D評価が15%以上 において内容を検討する。	心の教育に資する。 生徒に対してアンケートを実施する。
	④ 基本的な生活習慣の定着を目指し、生徒への心に届くよう、教師が率先垂範を心掛ける。	総 務 教 務 生徒指導	遅刻は少なく、挨拶については高い評価を得ている。更に清掃活動や朝礼、授業時の学びの姿勢を大切に「立腰」を呼びかけ、主体性に満ちた生徒を求めたい。	【成果指標】 基本的な生活習慣が定着し、学校生活を主体的に取り組んでいると自己評価できるか。	基本的な生活習慣が A 十分定着し取り組んでいる B まあまあ定着し取り組んでいる C あまり定着せず取り組んでいない D 取り組んでいない	C・D評価が15%以上 で指導体制を強化する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	⑤ 普段の生活の中で行う掃除を大切に、生徒と共に奉仕と思いやりの心を育む。	総 務(管理) 生徒会 生徒指導	課業の後始末である清掃が、まちまちである。効率良く、責任と自覚を持ち、励む生徒とそうでない生徒の差を感じる。同時に朝、部単位での清掃活動が見られる。	【成果指標】 一人ひとりの生徒が気持ちよく清掃(奉仕)活動を向きあえたか。	清掃活動では、気持ちよくできたか A 良くできた B まあまあできた C あまりできなかった D できなかった	C・D判定が25%以上 において内容を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	⑥ 幅広い読書を意欲的に行うことで、思考と情操を深め、自らの人格形成に生かす生徒の育成を図る。	図書館 総 務	利用推進活動を目に見える形でPRしていく。全校での読書週間を設けさらに利用を促す。年間最多貸し出し者には、図書館賞を授与している。	【努力指標】 自己形成に読書力は必要である。生徒自らの読書習慣が定着したか。	自らの読書習慣を身につけることが A 十分身についた B まあまあ身についた C あまり身につかなかった D 身につかなかった	D判定は意欲を促進 する内容と活動を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 基礎学力の向上とともに学習意欲の涵養に努める。特に進路に対する個人指導を重視し、新たな自己の才能の伸長を促す。	① 各教科において、興味、関心、意欲を引き出す授業の確立に向けて、教材の精選と指導法の工夫改善に努める。	教務(研修) 教科	興味、関心、意欲を持たせる授業を目指し、年4回の授業参観を実施する。アクティブラーニングやICT活用を学ぶため他校(小中高)の参観を今年も実施する。	【努力指標】 授業は分かりやすく工夫されているか。	分かりやすさを実感している生徒の割合 A 大変工夫されていると感じる B まあまあ工夫されていると感じる C あまり工夫されていないと感じない D 工夫されていると感じない	C・D評価が25%以上 において教務課を中心に改善策を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	② 基礎学力の向上と定着とともに学習習慣を身につけさせる。	教務 教科	「学び直し」を実施し、基礎学力の向上を目指しながら、個々の躓きを確認し、学習意欲を向上させる。	【成果指標】 基礎力診断テストにおいて、C判定以上を目指す。	D判定の生徒の割合	D判定が30%以上で実施の内容、指導方法を検討する。	年度最終の基礎力診断テストにおいて
	③ 普通科のビジネス、進学、特進の各コースと体育科の特色が顕在化するように研究と指導に励む。	教務 各コース	各科、コースにおいて級、資格の合格率を高めるために、指導の工夫、コースによっては実習、または7限授業と特色ある授業に努めている。	【満足度指数】 各科・コースの特色ある指導に、学習意欲が身につく、各種検定資格など取得できたか。	取り組みについての生徒の自己評価 A 意欲的に取り組むことができた B まあまあ取り組むことができた C あまり意欲的に取り組めなかった D 取り組めなかった	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	④ 各学年において、一貫したキャリア教育を通して、職業観や勤労意欲の育成に努め、よりよい進路選択の一助とする。	進学 就職	各学年において進路(進学・就職)のガイダンスや外部講師の講話、大学見学や企業見学・実習等の研修を行っている。	【努力指標】 各学年で実施されたキャリア教育において、生徒自身が、有意義なものと感じたか。	進路選択に A 非常に役立った B まあまあ役立った C あまり役立たなかった D 役立たなかった	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	⑤ 生徒、保護者の志望を把握し、きめ細かなガイダンスを実施し、個人面談・家庭訪問を行う。	教務 学年	PTA活動や学校公開を通じて多くの保護者と接し、信頼関係の構築に努めている。1、2学期の通知表渡しの際、全学年で個人面談を行っている。	【努力指標】 個人面談で担任が生徒の進路に関する志望や現状を十分把握しているか。	保護者が希望する面談回数 A 年3回以上 B 年2回(現状維持) C 年1回 D 少なくともよい	A・C・Dのいずれかの回答が25%以上の場合、面談の回数・あり方を検討する。	PTA総会に参加した保護者に対してアンケートを実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 観 点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 地域社会の発展と共に歩む学校であることを認識し、生徒、保護者、教職員三者が敬愛と信義の念を持ち、連帯感の重要性を図る。	① 通年2回の地域の方々との交流を通じて、「花見まつり」「谷高ふれあいレクリエーション」を開催し、教職員や生徒とふれあい、相互の発展を求める。	総 務 保健体育 生徒会 PTA	創立当時の様子を伺えたり、現在の本校に対する期待が感じられる。また、生徒達とのふれあいを大切に共存共栄の認識を求められている。	【成果指標】 地域の方々に本校の教育活動にご理解を得られているか。	本校の教育活動が地域に A よく理解していただいている B まあまあご理解していただいている C あまりご理解していただけない D 理解していただけていない	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。	9月開催 PTA役員へのアンケートを実施する。
	② 登下校時、通学路として使用している学校周辺道路を、全校生徒での奉仕清掃活動を実施。「わが町美化ピカ隊」への参加	総 務(管理) 全学年 (PTA)	各クラス毎に町内の奉仕清掃活動を年間3回行っている。	【努力指標】 ゴミ拾い等の清掃が確実に行われ、積極的に取り組めたか。	奉仕活動についての生徒の自己評価は A 積極的に取り組むことができた B ある程度取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 取り組めなかった	C・D評価が30%以上 において内容を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	③ 交通マナー向上のための活動に努力する。	生徒指導 生徒会	登下校時における自転車マナーアップおよび、下校時の蛍光タスキ着用義務を徹底させている。毎年、1年生を対象に交通安全教室を実施している。	【成果指標】 交通規則を遵守して、マナーを守っているか。	交通マナーについての生徒の自己評価は A よく守っている B まあまあ守っている C あまり守っていない D 守っていない	C・D判定が10%以上 で指導体制を強化する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	④ 危機管理意識を高め、事故防止と発生時の対応に万全を期す。AED講習会も開催している。(AED2台の設置) 「三大訓練の実施」	総 務 保健体育 生徒指導	教職員の意識は喚起されつつあるが、緊急時の対応訓練(通報、消火、避難)は常に必要である。	【成果指標】 不慮の事故防止のための研修・実施訓練を行っている。	危機管理に関する校内教員研修・訓練を A 年間3回以上行った B 年間2回行った C 年間1回行った D 行わなかった	C・Dにおいては日程・内容を検討する。	危機管理として防災訓練を6月・11月、AED講習を5月に予定。
	⑤ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことで、生徒の様子を直に見てもらい、保護者との連携を更に深める。	総 務 生徒会	強歩大会での補助員・豚汁提供や文化祭での模擬店の出店、部活動保護者会に参加していただく。母親委員会では講演会「教育を考える集い」を実施している。	【成果指標】 保護者が積極的に学校行事に参加する。	学校と保護者の連携が A かなり深まった B まあまあ深まった C あまり深まらなかった D 深まらなかった	C・D判定が15%以上 で日程・内容を検討する。	PTA役員へのアンケートを実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 観 点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 生徒会活動、部活動への参加意識を高め、自主・自立・協調の精神を育成し、心身の健全な発達を目指す。	① 部活動の活性化を通じて、生徒の自主性や自立心の育成を目指す。一年生の全入部制を謳い活動内容の充実・向上を図る。	生徒会 第1学年 学年	進路選択や進路先から、コミュニケーション能力を問われる事が多く、部活動がその一役を担っている。	【満足度指数】 生徒達が部活動運営や方針に対し充実感を抱き、満足しているかどうか。	部活動に満足している A かなり満足している B まあまあ満足している C あまり満足していない D 満足していない	C・D評価が10%以上 において指導体制を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	② 生徒一人ひとりの生徒会活動への参画意識を高め、生徒自らの意見を十分取り入れた行事を行う。	生徒会 学年	生徒会執行部を中心に主体的に活動している。	【成果指標】 生徒が生徒会活動の主旨を理解し、活性化しているか。	生徒会活動について A よく活動している B まあまあ活動している C あまり活動しているとは思わない D 活動しているとは思わない	C・D評価が30%以上 において活動のあり方を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	③ GS隊による挨拶・交通安全活動の実施。	生徒会	生徒会でGS隊(各委員会の当番制による)を結成し、登校時に挨拶や交通安全を呼びかける活動を2カ所で通年行っている。	【努力指標】 GS隊の活動が確実に行われ、積極的に取り組まれているか。	GS隊活動についての生徒の自己評価は A 積極的に取り組むことができた B ある程度取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 取り組めなかった	C・D評価が30%以上 において活動のあり方を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	④ 鑑賞や創作を通して情操陶冶と健やかな人間形成に役立つ。	生徒会 国語科	観劇・コンサート鑑賞や校内での短歌・俳句大会をそれぞれ年1回実施している。	【満足度指数】 鑑賞や創作に意欲的に取り組めたか。	豊かな心を育てるのに A かなり役立った B まあまあ役立った C あまり役立たなかった D 役立たなかった	C・D評価が25%以上 において活動のあり方を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。